



愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次

開学記念事業等	2
光る教員の活躍	3
海外研修等盛ん	4
世界大会で優勝	5
秋彩る各学校際	6
運動・芸術の秋	7
愛名会講演会等	8

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
TEL (0565) 48-8177

学園創立九十六周年を祝い記念式典 ―覚王山日泰寺では物故者法要営む―

学校法人名古屋電気学園が大正元年（一九一二年）に名古屋電気講習所を開設してから今年で九十六年を迎えました。九十六周年を祝う記念式典が十一月十日、名古屋市千種区の愛工大名電高校・喬徳館で行われました。この後、平成二十年年度物故者法要が覚王山日泰寺でしめやかに営まれました。

記念式典には、後藤淳理事長、後藤泰之愛工大
学長ほか学園役員、永年
勤続者、学園各設置校の
教職員らが出席。後藤淳



後藤淳理事長から表彰を受ける永年勤続者＝名電高校・喬徳館で

理事長が学園の歴史を振り返り、学園発展のために教職員のいっそうの尽力を呼びかけました。

続いて、永年勤続者表彰が行われ、後藤淳理事長から勤続四十五年、三十五年、二十五年、十五年の教職員一人ひとりに賞状と記念品が贈られました。受賞者を代表して大学の成田国朝都市環境学科教授が「今後とも学園の発展に寄与したいと考えています」と謝辞を述べました。（各表彰者名は八ページに掲載）



しめやかに営まれた平成20年度物故者法要＝覚王山日泰寺で

また、覚王山日泰寺本堂で営まれた「平成二十年年度学園物故者法要」には後藤淳理事長、後藤泰之学長ほか学園、各設置校教職員、学生・生徒、

遺族、同窓会、後援会関係者らが出席。読経の流れる中、出席者がこの一年間に亡くなった十一人をはじめ学園関係の物故者のめい福を祈って、次

名古屋電気学園事務職員対象に研修会開催

平成二十年年度の名古屋電気学園事務職員研修会が八月二十七～二十九日の三日間、八草キャンパスの12号館四階で開かれました。今回は、従来の講師らの話を聞くのではなく、職員がグループに分かれてテーマごとに自由に意見を出し合い、課題や対策などを話し合う「ブレインストーミング」形式で行われました。

知恵を出し合い、何か起きた時に「私ならこうします」と、進んで取り組む気持ちを持つてほしいと、述べました。

職員が知恵を出し合い学園、大学の抱える課題解決の道を探る

この後、参加者は五グループに分かれて決められたテーマごとに話し合い、終了後に各グループが、それぞれの討議内容を発表しました。「休学・退学者を減少させる」をテーマにしたグループは、留年者に休学・退学者が多いというデータを基に、対策として▽学生のケアに力を入れる▽学生に目的意識を持たせる▽経済的支援の提言がありました。

また、中堅、一般職員を対象にした研修会もグループに分かれ、管理職と同じテーマで、話し合いました。

々に焼香しました。この後、理事長らは日泰寺近くにある学園墓地を訪れ、慰霊碑の前で手を合わせていました。

新キャンパス建設へ 意見聴取会、建築審査会で同意得る

愛工大の「名古屋・自由ヶ丘キャンパス」（仮称）建設に対する**意見聴取会**が八月二十九日、名古屋千種区の自由ヶ丘小学校で開かれ、建設の同意を得ました。建築審査会でも同意を得て、建設へと動き始めました。



大学、市、近隣関係者による意見聴取会

本学は教育環境、利便性など考慮し名古屋千種区自由ヶ丘の市有地を借りて、地上三階、地下二階の校舎を建設することとしています。建設地が第一種低層住居専用地域から、建築基準法第48条第14項のただし書き規定に基づき建設許可を受

けることになりました。そのためには近隣関係者からの意見聴取、建築審査会の同意が必要となります。

この日の意見聴取会には、市のほか建設地境界から五十以内の住民、土地所有者らの近隣関係者二十八人と大学側から後藤泰之学長、稲垣慎二副学長らが出席しました。市の担当課による「ただし書き」の説明に続き、後藤泰之学長が自由ヶ丘を大学のキャンパスに選んだ理由、キャンパスの規模、施設内容について説明しました。

この後、市、大学側と住民側の間で建設期間中の工事騒音、開校後のキャンパス周辺の不法駐車対策などの質疑応答があ

り、最後に近隣関係者に挙手で建設賛否を問いました。投票権のある全員が、条件付きを含め賛成でした。

それを受けて、後日開かれた建築審査会でも建設同意を得ました。

都心の大学キャンパスとして自然、教育環境に恵まれ、来年4月に開設予定の経営学部経営学科（設置届出予定）の2専攻が入ることになっています。新校舎には講義室や研究室、ゼミ室などの「研究ゾーン」のほか、地域住民も利用できるマルチメディア情報センター等の共用ラウンジなどの設置を予定。校舎の周りには並木道を造り、学外の緑とつながった地域のアメニティ空間とすることになっています。市営地下鉄名城線・自由ヶ丘駅に近く、地下鉄やバスなど公共交通機関の利用もでき名古屋の中心地やJR、私鉄の各駅へのアクセスも良く、通学にも便利です。

自由ヶ丘キャンパスは



(キャンパスのイメージ図)

映画 築城せよ！

来年六月公開に向け製作中の劇場用映画「築城せよ！」は、十月二十七日と



豊田市・鈴ヶ滝湖周辺に完成した段ボール城の前で教職員、学生も出演し行われた撮影風景

二十九日、ハイライトの豊田市・猿投地区の鈴ヶ滝湖周辺に造られた段ボール城（石垣部分を含め高さ二十五メートル）の攻防シーンなどを撮り終えて、十一月一日に全撮影を終えました。

映画は、戦国武将の霊に取り付かれた町役場職員が町民と力を合わせ、段ボールの城を造るというストーリー。古波津陽さんが監督で片岡愛之助さん、海老瀬はなさん、江守徹さん、阿藤快さんら俳優陣に加え、

来年迎える大学開学五十周年に向けて、さまざまな記念事業が進行中です。中でも全学挙げた映画製作は十一月初旬に撮影を終え、大学OBらに向けた情報誌も第一号が発行されました。

進む開学50周年記念事業



開学50周年
記念情報誌

学園支援組織・愛名会、教職員OBらを対象にした開学五十周年記念情報誌「創(SOU)」第一号を発行しました。後藤泰之学長インタビューほか「築城せよ！」特集、卒業生インタビュー、学園各設置校紹介など話題満載です。A4サイズ、フルカラー十二ページ。

情報誌 第1号発行

愛工大50周年記念事業事務局は十月、大学OB、名古屋電気

愛工大生が役者から小道具製作までの裏方を務めたのが特色。撮影は八草キャンパス内の旧本部長、鈴ヶ滝湖周辺などで行われ、学生以外に教職員もエキストラとして協力し、愛工大開学五十周年にふさわしい記念映画になっています。

各分野で光る本学教員

国際会計研究学会長

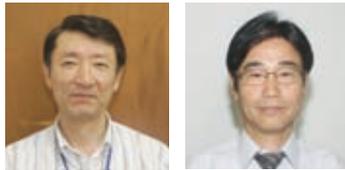


野村健太郎経営情報科学部教授、大学院経営情報科学研究科長が、国際会計研究学会会長に就任しました。任期は二〇〇八年八月から三年間。同学会は一九八三年に設立され、現在、大学教員ら研究者を中心に八百人を超す会員を擁し、経済分野のグローバル化で比重を高める国際会計研究に取り組み、近年は日本でも来年から採用される国際会計基準を重点に研究しています。

野村教授は学会設立からの会員で既に理事、監事も務めています。今回の会長就任にあたり「今後、国際会計基準の啓発、普及に努めたい。また、近年、経済発展が目覚ましい中国、韓国などの各学会との交流や、地方活性化のために開催例のない地方大会も実現したい」と、抱負を語っていました。

教授は会計学、国際会計、NPO会計など専門で、現在、大学総長補佐も務めています。なお、事務局は本学に置かれます。 (写真は、野村健太郎教授)

日本接着学会副会長・支部長



六月に開催された「日本接着学会」総会で、**山田英介**応用化学科教授が副会長、**尾之内千夫**同教授が中部支部長に就任しました。任期はいずれも二年です。

学会は、接着・粘着及び接着剤・粘着材に関する技術向上、普及に寄与する目的で一九六四年十一月に設立され、会員は約二千人です。山田教授は、中部支部長に次いで副会長就任で、学会内での表彰選考を含む学術研究、年会などの各行事を担当します。「若手会員が減っており魅力ある学会づくりに努めたい」と、抱負を語っていました。昨年五月からは、会員二千六百人を擁する「社団法人日本ゴム協会」の副会長(任期は来年五月まで)も務めています。

尾之内教授は、中部支部長として中部地区総会、若手研究者の育成、子ども向け啓発用イベントなどの支部活動のまとめ役を担当します。「学会のPRなどに努め、会員減少に歯止めをかけたい」と、話していました。

【写真は、⑥が山田英介教授、⑦が尾之内千夫教授】

フローインジェクション分析国際会議



酒井忠雄応用化学科教授を組織委員長とする第15回フローインジェクション分析国際会議と日本分析化学会フローインジェクション分析研究懇談会創立25周年記念講演会が9月28日-10月3日、愛工大・本山キャンパス、名古屋ガーデンパレスの両会場で開かれました。

国内外の研究者約200人が参加し、化学分析の自動化、マイクロ化などテーマにした口頭発表44件とポスター発表121件の発表が行われました。酒井教授はフローインジェクション分析研究懇談会の活動、**手嶋紀雄**応用化学科准教授は、簡単にできる健康診断技術を志向した呼気ホルムアルデヒドの分析に関する研究成果を発表しました。 (写真は酒井忠雄教授)

防災功労者内閣総理大臣表彰



本学の**入倉孝次郎**地域防災研究センター客員教授が、「平成20年防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。7月に受賞した「平成20年安全功労者内閣総理大臣表彰」に続いての荣誉です。

防災功労者内閣総理大臣表彰は、毎年9月1日の「防災の日」にちなみ防災思想の普及、防災体制の整備に尽力、災害時の防災活動で特に功績のあった個人、団体に贈られます。地震学者で強震動地震学が専門分野の入倉客員教授は、地震断層により生じる揺れを予測する「強震動予測レシピ」(入倉レシピ)を考案、また、中央防災会議各専門調査会委員・文科省地震調査委員会委員として地震動予測や防災体制構築などに貢献しました。表彰式は9月2日、首相官邸内で行われ、福田康夫首相(当時)から表彰を受けました。

また、安全功労者表彰は、交通安全や火災予防など、国民の安全の確保について顕著な功績をあげた個人、団体が対象。入倉客員教授は、強震動地震学の専門家などとして原子力発電所の設計・安全評価など各種指針の策定・整備の検討に尽力。また、原子力安全委員会耐震安全性評価別委員会委員長などを務め、原子力災害の防止や安全向上に貢献をしたことが認められました。

入倉客員教授は、京都大防災研究所所長、副学長等を歴任し現在、名誉教授で、2005年4月から本学の地域防災研究センター客員教授を務めています。 (写真は、入倉孝次郎客員教授)

学生、生徒の海外研修、交流活発

語 学 研 修

大 学

ESLで英会話力アップ



今年で二回目となる「2008年アメリカ語学研修」が八月十五日〜九月五日まで、米国・ワシントン州のエドモンズ・コミュニティ・カレッジで行われました。男女学生十四人が参加し、現地の家庭にホームステイして、語学研修に励みました。午前は日常生活に必要な英会話、基本文を学ぶ

ESL（英語学習プログラム）を受け、午後は研修ツアーでシアトル市内の観光を楽しみました。この中には、名電高野球部OBのイチロー選手が活躍するシアトルマリナーズの試合観戦やボーイング社の航空機製造工場見学なども含まれ、学生には実りある語学研修でした。

【写真は、ⓐが充実の授業風景ⓑがエドモンズ・コミュニティ・カレッジ前の参加者】



高 校 各国の生徒と交流促進

生徒十六人が七月二十一日〜八月五日まで、カナダ・バンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大学で開かれたカナダ語学研修に参加しました。

中 学

ブーメランの絵付けなどで先住民文化を学ぶ

オーストラリア語学研修が七月二十六日〜八月十日まで、オーストラリア・シドニー郊外のヴィンセント・ハイスクールの参加者は男女生徒十四人で、現地の家庭にホームステイして生活習慣も学びました。

訪問中学は二〜三年ごと



写真は、各国の生徒と記念写真に収まる語学研修参加者ら

生徒らは大学内の語学研修機関に在籍し、世界から集まった約五百人を超す生徒と一緒に学びました。各国の生徒と英語の授業などを通して交流



写真は、ブーメランの絵付けに挑戦する生徒ら

とに変わっており、今年のヴィンセント・ハイスクールは、例年以上に生徒間の交流が活発でした。

また、オーストラリア先住民、アボリジニの伝統的なダンスに参加したり、ブーメランの絵付けを通して絵文字の意味を学び、生徒には貴重な体験となりました。

を深める一方、ワイスマー・マウンテンなどカナダの自然を満喫し、充実した十六日間の研修を過ごしました。

名電高 訪中団

南京市第九中学を親善訪問

教職員三人、生徒八人からなる訪中団（団長・若杉和彦事務長）が七月二十二日〜二十六日まで愛工大姉妹校の東南大学（中国・南京市）の附属中高一貫校南京市第九中学を訪問しました。二十二日午後、中学に到着した一行は、待ち受けていた王伏才校長ら学校関係者の温かい歓迎を受けました（写真ⓐ）。

二十四日には、同中で中国切り絵授業、第九中生徒との交歓会に参加して、生徒同士の交流の輪を広げました。帰途、上海市にも立ち寄り、市内見学や上海雑技団のショーを楽しみました。

国 際 流 動



各分野での生徒の成果光る

愛工大附中ロボット部員がロボカップ世界大会で優勝



愛工大附属中学校中高一貫コースの高校三年生、**稲森太一君**が初出場で七月十五日〜十九日まで中国・蘇州で開催された「ロボカップ2008蘇州世界大会」で世界一に輝きました。

稲森君は、蘇州インターナショナルエキスポートセンターで行われた「ロボカップ2008蘇州世界大会」のジュニアレスキューチャレンジセカンダリ部門（対象は十五歳以上十九歳以下）に初めて出場しました。同競技には、日本、英国、ドイツ、ブラジル、中国など計二十六チームが参加。自律型ロボットに取り付けた各種センサーを駆使し、障害物など各課題をクリアしながら被災者に見立てた銀、緑のシールを見つけ、得点を競い合いました。

稲森君はチーム「EMERGENCY！」（チームは本人だけ）のチーム名で、ドイツチーム「Hopps」とペアになり、四百点満点中三百八十三点を獲得してマルチチーム部門で優勝を果たしました。

稲森君は五月三日〜五日、静岡県・沼津市民体育館で行われた「ロボカップジャパンオープン2008沼津」で、関西の選手とチームを組み二位に入り、世界大会の出場権を手に入れました。中学一年の時に参加した愛工大のイベント「まるごと体験ワールド」で興味をもち、附中のロボット部に所属する傍ら、愛工大本山オーブンカレッジの少年少女ロボット教室に参加して、ロボットの製作や操作の腕を磨いてきました。

本学教員、国際委員会技術委員に

また、稲森君を数年間にわたり指導している愛工大の水野勝教情報科学科准教授は、今回の世界大会で審判として活躍、ジュニアレスキューの国際委員会技術委員に選出されました。

【写真は、**④**が世界大会で優勝した稲森太一君**⑤**愛工大附中で**⑥**が世界大会でペアとなったドイツチームの「Hopps」と表彰台の稲森君**⑦**中国・蘇州で】



国内外の大会で大活躍一名電高相撲部

南米選手権大会で優勝



主将の**神山達哉君**（普通科三年、写真**⑧**）が、七月二十日、ブラジル・サンパウロ市で開催された「ブラジル日本移民百周年記念相撲大会」に出場、**南米選手権大会**で優勝しました。ブラジル相撲連盟からの要請を受けて全国高校体育連盟相撲専門部が、全国各ブロックから高校生を選抜して同大会へ派遣しました。神山君は、三月の第五十九回全国高校相撲選抜大会個人の部で準優勝し東海ブロック代表に選ばれました。南米選手権大会では決勝に勝ち進み、同じ遠征代表の信越ブロック代表を破り優勝に輝きました。

高校総体個人戦で高校生横綱に



部員の**吉田圭佑君**（普通科二年、写真**⑨**）が七月二十九日〜三十一日、埼玉県秩父市文化体育センターで開かれた平成二十年度全国高校総体相撲競技大会に出場、個人戦で優勝、高校生横綱に輝きました。

また、八月二日、三重県伊勢市の伊勢神宮で行われた**第三回全日本ジュニア体重別選手権大会**では、神山君が八十キロ級未満で優勝、吉田君が百キロ超級で三位。八月三日、大阪府堺市大浜公園相撲場で行われた**第九回西日本選抜女子相撲大会**では**加古若菜さん**（附中二年、写真**⑩**）が重量級で準優勝という成績を収めました。

世界ジュニア選手権で優勝



十月十一日、エストニア・ラクベエレ市で行われた**第九回世界ジュニア選手権**に神山君と吉田君が、日本代表で出場。二人は団体戦に出場し決勝でエジプトを破り、優勝しました。吉田君は個人戦無差別級でも準優勝しました。同時開催の**第一回世界ジュニア女子選手権**には加古さんが団体戦に中堅で出場、三位に入りました。

学祭華やかに秋飾る

秋を彩る名古屋電気学園各設置校の学祭がそれぞれのキャンパスなどで開かれ、各会場ともアイデアや趣向、学生、生徒らの情熱にあふれ、盛況でした。

工大

まんぷく

「まんぷく」をテーマにした第四十八回愛工大祭が十月十一、十二日を中心に八草キャンパスで開かれました。開学五十周年記念事業の劇場用映画「築城せよ！」に絡む出し物、人気の「工科展」、ダンスフェスタなど盛りだくさんのイベントがキャンパスを彩りました。



今回の大学祭は、主会場のセントラルパークでの同好会などの模擬店、フリーマーケット、特設ステージでのダンスフェスタ、お笑いライブなど計二十四の企画が祭りを盛り上げました(写真①)。

中でも工科系の大学祭にふさわしい各研究室や同好会などの研究成果を集めた「工科展」(愛和会館内)には、人力飛行機同好会など九団体が出展。古橋研究室のヒューマノイド型ロボットプロジェクトのA I T 鉄人4号、鳥人間コンテストに出場した人力飛行機同好会の機体が来場者の注目を集めていました。十一日行われた審査(写真②)で、自律走行二輪車から垂直離陸着・テイルローター機の研究に乗り出した渡辺研究室が優勝



を見て回っていました。

しました。会場には後藤淳理事長・総長(写真③)も訪れ、展示品

ミニ安土城を製作

また、10号館前では、段ボールのミニ安土城が、建築研究会のメンバーの手で組み立てられました。映画「築城せよ！」の主舞台となった

段ボールのミニ安土城の建築研究も兼ねて研究会が畳大の段ボール約千二百枚を使い製作。この日、各層別で作ってきた天守閣など二層からなる高さ四・一メートルの城を組み立て、披露しました(写真は、城と研究会メンバー)。



このほか、ミニ講義、個別相談や研究施設公開からなる「秋季オープンキャンパス」も十一日開かれ、高校生、保護者にぎわいました。

名電高校

輝け自分愛 名電フェスティバル

九月十九日、講堂兼体育館・喬徳館や教室、一階中庭の光の庭を会場に開かれ、生徒の熱気に包まれました。台風接近ということで今回は、午前だけの開催となりました。喬徳館では各クラスの趣向を凝らしたダンスや生徒有志による初のバンド演奏が披露されました。



では、生徒会企画のボール投げなどのゲーム、生徒の作る「みたらし団子」店に、長い列ができていました。

附属中学

団結力

新校舎建設中から、今年名古屋市昭和区鶴舞の市公会堂・大ホールを主会場に九月二十日、開かれました。午前中は中高一貫コースの中学生による環境問題、差別を主題にした弁論発表、クラス対抗の合唱コンクールが行われました。写真④。午後からは同じく高校生によるクラス企画で、「桃浦真赤物語」の劇やダンスなどが披露され、観客を楽しませました。また、公会堂内では生徒や教員の作った焼き物、歴史上の人物調べなど社会、理科の夏休み課題作品、ロボカップ世界大会で、優勝した稲森太一君(中高一貫コース高校三年)の所属するロボット部、写真部などの作品展示もありました。



スポーツ、芸術の秋を満喫

大学

紅葉の中、駅伝大会開催

学生、教職員ら参加の**第二十八回愛工大駅伝大会**が十一月七日、紅葉に彩られたキャンパスを回るコースで行われました。旧本部棟前で開かれた開会式では、後藤泰之学長が「日ごろの練習の成果を發揮して頑張ってください」と激励、参加者を代表して昨年の「選手権の部」で優勝した硬式テニス部の遠藤亮太君（経営学科一年）が選手宣誓をしました。



駅伝は、学長によるピストルの音を合図に、四十八チームが参加した「オープンコースの部」でスタート（写真①）。奇抜な衣装姿の学生らもいて、応援する人たちの目を楽しませていました。続く「学科・専攻交流の部」には、教職員も参加し研究室の学生らの声援を受け、力走しました。最後の「選手権の部」は、実力ぞろいのチームが出場しハイレベルな走りを繰り広げました。

中学

綱引きなど6種目で競い合う

の練習の成果を發

体育祭が九月二十六日、日本ガイシホール（名古屋市中南区）で行われ、生徒らが各種目に心地よい汗を流していました。今回は、新校舎が建設中から名電高校と同じ会場で開催。開会式で横地徹校長から「日ごろ



生徒らのチームワークで競い合う「大玉送り競技」

高校

迫力満点のレインボーフラッグ

九月二十五日、日本ガイシホール（名古屋市中南区）で**体育祭**が行われ、全校生徒が六ブロックに分かれて、熱い戦いを繰り広げました。ゴール地点の旗を奪い合うレインボーフラッグや男女別ブロック対抗リレーでは、観客席の応援団も一体となって盛り上がりました。

二人三脚の借り物競走は、借り物の衣装などまとった生徒らのユーモラスな格好が、笑いを誘っていました。また、「玉入れ」は、各ブロックから三十人ずつ一組となつて出場、競い合いましたが、選手は全員女生徒とあつて盛り上がり、広いホールも一段と明るい歓声と熱気に包まれていました。



【写真は、「レインボーフラッグ」で旗めがけて猛ダッシュする選手ら】

揮ってください」と励ましを受けた後、中高一貫コースの生徒らは、中学生から高校生まで含む五グループに分かれ六種目で競い合いました。最初に行われた「ガイシフラッグ」は、スタートラインでうつ伏せに寝た状態から合図と同時に飛び起き、ゴール地点の旗を奪い合う競技です。選手は少ない旗を奪い合おうと、勢いよく走り込んでくるため迫力満点でした。

また、綱引きでは、中学生、高校生別に分かれ、ピストルの音と同時に、顔を真っ赤にして綱を引っ張っていました。大玉送り競技も綱引き同様、チームワークを發揮して熱戦を繰り広げました。

吹奏学部&OBOGバンド ジョイントコンサート

競演で聴衆を魅了

「吹奏楽部&OBOGバンドジョイントコンサート」Homecoming」が十月十八日、名古屋市中熱田区の名古屋国際会議場・白鳥センチュリーホールで開かれました。今年で創部五十三年の同部は、全国トップレベルで全日本吹奏楽コンクール常連校としても知られています。

今回は「Homecoming」のテーマに合わせOBとのジョイントコンサートを企画。伊藤宏樹教諭と同部出身の指揮者寺島康朗氏の指揮で、現役、OBの順で演奏。この後、伊藤教諭指揮で「ファンファーレSEA」などを合同演奏し詰めかけた名電生徒、保護者を魅了しました。



素晴らしい演奏で、聴衆を魅了した名電高吹奏楽部の演奏

元中部経済産業局長迎え講演会

愛名会 便り



写真は、講演する細川元中部経済産業局長

名古屋電気学園の支援組織・愛名会と中部産業連盟共催の「平成20年度講演会」が11月4日に名古屋市中区の名古屋国際ホテルで開かれました。

講師は、細川昌彦元中部経済産業局長。「鳥の目で見える地域経営」と題し、持論の「グレーター・ナゴヤ」を展開し、今や人、モノの流れは地域や国を越えて広がっており、日本もシンガポールや香港などのように人材や企業を呼び込みマーケットを拡大しないと、立ち遅れてしまうと力説。そのためには世界から人を呼び込める国際会議の誘致やビジネスマンの集まる最低でも10万平方メートルの国際見本市会場が必要と、話しました。

講演会には、後藤淳理事長、神尾隆愛名会会長ほか会員企業ら約200人が出席し、細川氏の話に熱心に耳を傾けていました。

永年勤続表彰者

- 【勤続四十五年】一人 (高校) 教諭・菅井善章
- 【勤続三十五年】六人 (大学) 工学部都市環境学科 教授・成田国朝▽同・小池幸男 (高校) 教諭・遠藤喜一郎▽同・玉置輝男 (学園) 管理部調達課課長補佐・宮崎静▽財務部会計課課長補佐・倉地久美子
- 【勤続二十五年】五人

- (大学) 工学部都市環境学科 教授・岡田久志▽経営情報科学部経営学科学科教授・藤井勝紀▽基礎教育センター教授・梶川忠▽計算センター事務室係長・森島映子
- 【勤続十五年】十一人 (大学) 学長・後藤泰之▽工学部応用化学科教授・酒井忠雄▽経営情報科学部経営学科学科教授・野村重信▽経営情報科学部情報科学科教授・伊藤雅▽基礎教育センター准教授・

学園人事



後藤淳理事長(前列右から5人目)らを囲み記念写真に収まる永年勤続表彰者

- ローレンス ケリー▽同・チヤールス ケリー▽同・ブルース ボーランド▽経営情報科学部情報科学科准教授・ジョン ヒュゲット▽基礎教育センター准教授・マーク オフナー▽学生支援本部教学センター教務課係長・石川裕之▽入試本部入試センター入試係長・横井浩治 (敬称略)

◇人事異動◇

- 【新規採用】11月1日 (大学) 工学部応用化学科教授 釘宮 慎一
- 【新規委嘱】11月1日 (大学) 研究支援本部地域防災研究センター客員准教授 西村雄一郎
- (大学事務局) 助成課嘱託職員 川口 朋代
- 【退職】11月30日

編集後記

愛知工業大学は来年、開学五十周年を迎えます。人に例えればまさに働き盛りと言えます▼そのエネルギーは様々な周年記念事業となり躍動しています。その一つに映画製作があります▼「築城せよ！」です。ロケは大学と豊田市・猿投温泉・鈴ヶ滝湖周辺をメインに行われました。最も注目されたのは、学生が全面的に参加したことといえます▼その背景には、学長の「映画は学生のものづくりの教育の場になる」との思いが、学生参加の道を開きました▼城の石垣や大広間という小道具製作、照明手伝いなどの裏方からエキストラ、役者まで映画のあらゆることに携わりました▼マスコミにも機会あるごとに取り上げられ、話題を集めました▼ロケも十一月始めにすべての撮影を終え、キャンペーンは元の静けさに戻りました。映画公開は開学五十周年の年、来年六月の予定▼映画づくりに参加し、やり遂げたことは、それぞれの学生にお金で買えないものを残しました▼それは社会に踏み出した時に、初めて分かると思いま